

Book reviews

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053297

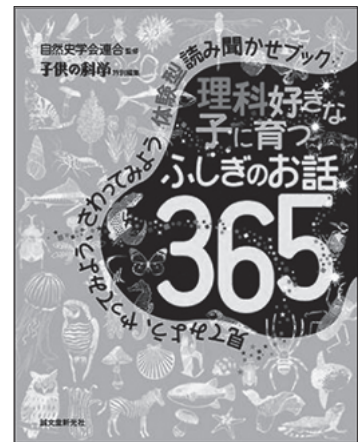
This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



新刊紹介

○自然史学会連合（監修）・子供の科学（特別編集）：理科好きな子に育つ ふしぎのお話365 見てみよう，やってみよう，さわってみよう 体験型読み聞かせブック 縦240mm×横190mm，392頁，2015年2月23日，誠文堂新光社，2,300円＋税。

科学や理科に対する子どもたちの興味・関心を導く目的で，自然科学に関する様々な話題や研究成果について，特に身近な視点を意識しながら話題を提供している児童向け科学読み物である。自然史学会連合に加盟する39の学協会に所属する研究者が執筆に参画しており，動植物をはじめとする様々な生き物に関する話題を中心に，天文・気象，地質・化石，地形，環境問題，民俗学など内容は多岐にわたっており，自然史に関する様々な話題が幅広い分野から採り上げられている。小学校低学年の児童を主な読者として想定していることから，豊富なイラストによる解説とともに，すべての漢字にふりがなが付いており，子どもがひとりでも読み進めることができるようになっている。それぞれのテーマには，タイトルの横に「地球のお話」，「魚・貝の仲間のお話」，「昔の生き物のお話」などのシンボルが付されており，そのテーマがどのジャンルに含まれる内容であるのかが一目でわかるように工夫されている。一方で，採り上げられているテーマには大変高度な内容や新しい知見なども含まれており，大人が読んでも「なるほど！」や「知らなかった！」と思える話題が満載である。



1頁毎に1つのテーマが配置されており，1日1頁ずつ読んでいくと1年間で読破できるように構成されている。それぞれの頁には「読んだ日」を記入する欄が設けられており，日記感覚で子どもの達成感を煽りながら，確実に読み進められるように配慮されている。さらに，この「読んだ日」の記入欄はそれぞれのテーマに3箇所ずつ設けられており，繰り返し読むことや，兄弟などで共有しながら活用できるようにもなっている。それぞれのテーマは1月1日から12月31日まで，日めくり形式で紹介されており，花の時期や食材としての旬の時期など，季節に関わりがある話題の場合には，その時期のカレンダーに登場するように配置されている。しかし目次は，テーマの全タイトルが順にカレンダー形式で羅列されているに過ぎず，巻末索引がないことから，キーワードなどから知りたい話題を探すことが困難である。また，季節との関わりが薄い話題が何月何日の頁に出ているのかを見つけることも，少々面倒である。巻頭から初めて通読する場合は問題ないが，一読後に「あの話題や解説はどこにあったのか？」と探す場合も想定し，索引が設けられていると，さらに使いやすい本になっていたであろう。

本書には「見てみよう，やってみよう，さわってみよう 体験型読み聞かせブック」という副題が付いている。各頁のテーマには，副題にあるような問いかけ以外にも「調べてみよう」，「考えてみよう」，「探してみよう」，「食べてみよう」など，それぞれのテーマに関連した探究的なコラムが設けられている。ここでは体験的な活動のアイデアが示されており，家族で楽しみながら主体的に学ぶことへの発展が図られている。さらに欄外には「ひとくちメモ」として，テーマに関するこぼれ話などが記されており，より関心を深めることに結びつくような情報が示されている。

教育基本法改正や学校教育法一部改正などを踏まえて新たに施行された新学習指導要領では，小学校理科の目標に「実感を伴った」という文言が新たに追加された。これは，単に自然に触れたり，慣れ親しんだりすることだけではなく，子ども自身が興味や意欲をもちながら対象と関わることによって，自ら問題を見いだして学習活動の基盤を構築することができるように，目的意識や問題意識をもつことができるような教育活動が求められていることも意味している。本書には，興味深い自然に関する話題が豊富に提供されているとともに，子ども自身で考えたり，観察したりする主体的な学びを触発するような情報も数多く掲載されている。したがって，児童向けの読み物としてだけではなく，小学校で理科を担当する教員など，学校教育に関わる読者にとっても価値ある一冊となろう。

(西沢 徹)